

「新シーズン、各クラスで僅差の戦いを展開」



今年も注目のシリーズ

今シーズンで6年目を迎えるK耐久/GT耐久東海シリーズが、GT耐久は26台の参加者を集めて、愛知県蒲郡市のスパ西浦モーターパークで開催された。

マシン改造規定は大きな変更はないが、1.6のロードスターをはじめとした一部の車種が3Cクラスから1+2クラスに編入され、より接近したバトルが見られるように変更するなど、注目の多い開幕戦となった。

午後の天候は晴れ時々曇り、心配された雨の予報は消えている。昨年より大幅に増えた参加者の熱気が雨雲を寄せ付けないかのよう。

「1+2C」クラス(1500cc および特認1600cc以下のNA車と、1200cc以下の過給機付き車のクロードクラス)

事前レビューで上げたとおり、昨年タイトルを争ったヴィッツ、エコVTEC1500シビックに、1600ロードスターがどう挑むのか注目ポイント。もちろん同車種のライバルには負けたくない！

■予選

予選クラストップは新規参加の#88「菱木レーシング DXL シビック」でタイムは1'04.646、驚愕の4秒台で1500シビックのポテンシャルを見せつける。2番手には#92「ワインナイヴィッツ」1'08.742、これとて少し前では十分に速いタイム、10秒以内はこの2チーム。

3番手は初参加#68「CRAZY FORCE VEX K11」が1'11.650、メタリカルなペイントが個性的、以下#70「トータルセブンシビック GT」1'12.253、1'14.790、最後尾は#27「ルブロス PROFIT ヴィッツ」。昨年の総合2位、優勝経験もあるのだが、トラブルで完熟走行に出るのがやっとで、1'52.396。

■序盤

#88「菱木レーシング DXL シビック」は、お兄さんシビックたちともバトルをしながら、きっちりとクラストップを堅持。2番手には#68「CRAZY FORCE VEX K11」で初参加組が1-2を形成。

3番手#92「ワインナイヴィッツ」と4番手#27「ルブロス PROFIT ヴィッツ」はヴィッツ対決、#70「トータルセブンシビック GT」と#107「トータルセブンロードスター」のトータルセブンチームは今一つ乗り切れていない模様。

■中盤

1時間半過ぎとなると、#88「菱木レーシング DXL シビック」、56Lapを筆頭に#68「CRAZY FORCE VEX K11」、#92「ワインナイヴィッツ」までが1Lapのなかにひしめく混戦。#27「ルブロス PROFIT ヴィッツ」、#70「トータルセブンシビック GT」、#107「トータルセブンロードスター」が少し遅れて第2グループという形を作ってレースは後半戦へ向かう。



新規参戦組がいきなりの優勝 #88



こちらも新規参加組が2位 #68



この2台は同じクラス

Race Report

GT-CAR PRODUCE

■終盤

2時間すぎで、とうとう#88「菱木レーシング DXL シビック」が 78Lap で頭一つ抜け出す。とはいえ#68「CRAZY FORCE VEX K11」も 4Lap 差ながら食らいつく、優勝争いはこの 2 チームに絞られたか。

3 番手以降の争いでは、#70「トータルセブンシビック GT」が表彰台をうかがう位置まで浮上、このあたりは耐久の流れを熟知したチームならではの。それらと争うのが、#92「ワインナイヴィッツ」、#27「ルブロス PROFIT ヴィッツ」、このグループでは 2Lap 差で、ここも激しい表彰台争い。#107「トータルセブンロードスター」も完走を目指してゴールへと運ぶ。

■最終結果

開幕戦を制したのは#88「菱木レーシング DXL シビック」、2 位は#68「CRAZY FORCE VEX K11」で、見事初参加組が 1-2 フィニッシュ！！

表彰台の一角に滑り込んだのは、#70「トータルセブンシビック GT」。#92「ワインナイヴィッツ」は 1Lap で惜しくも 4 位。5 位#107「トータルセブンロードスター」、#27「ルブロス PROFIT ヴィッツ」は惜しくもリタイヤで完走扱いならず。

■総評

なんといっても#88「菱木レーシング DXL シビック」の速さ、予選には一歩譲るが、レース中のベストラップも 5 秒台前半を記録するなど、EK4 といっても差支えないほどのポテンシャル、それでいて静かという。また 2 位の#68「CRAZY FORCE VEX K11」も、ベストラップは 7 秒台に入り、速さもある。見た目はとってもアメリカンな個性的なマーチ、あっぱれ。

3 位は耐久強さを見せつけた、#70「トータルセブンシビック GT」出遅れもものともせず、しっかりと表彰台までのぼって見せた、出遅れがなければと思わせる走りはさすが。

ロードスターがトラブル気味なのが、残念な結果だったが、新時代の開幕戦として非常に見ごたえがあった。



耐久巧者らしい走りで見事表彰台 #70



ポテンシャルは十分 #92



次戦以降を期待したい #107



残念ながらリタイヤ #27

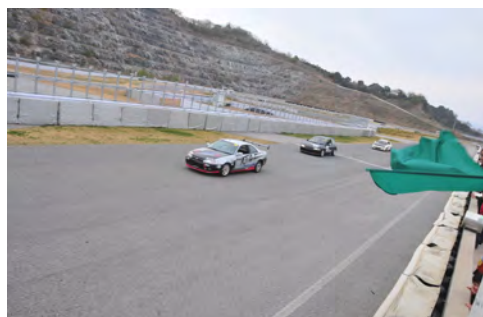




実績のあるマシンと実力者が優勝 #62



終盤逆転で自己最高位 2 位！ #33



ゴール直前超接近バトル 惜しくも 3 位 #111



昨年まで見慣れた光景は予選開始直後の赤旗回収によるもの

「3C」クラス（1501cc 以上の NA 車と、1201cc 以上の過給機付き車のクローズドクラス）

3C クラスは昨年の満点チャンプ「アクセント B」の姿が見られないが、他の上位勢は健在。そこへ#1「ミュルサンヌ MR-S」や#450「トルネオの大冒険」など新規参加チームやマシンが登場でこれまでにない戦いが期待される。

■予選

予選は#62「WN CLN シビック」がタイム 1'04.134、でクラス首位。2 番手は 1'04.802 で#72「SWEETSIGNAL パルサー」が追い、N1 レースを思い起こさせる。3 番手は#33「ボディショップ國盛 WP ミラーージュ」1'04.802、4 番手には唯一の欧州車#106「D&M スパイクオート 106」1'05.454、5 番手には新規参加#91「BRP スターレットターボ」1'06.538、6 位は同じく規参加#1「ミュルサンヌ MR-S」1'10.018、予選開始直後の赤旗中断は、完熟走行不足となってしまったか、スパ西初走行ドライバーには不運。

7 番手、8 番手は経験豊富な 2 チーム、#111「S'tec AE-1 ファジートレノ」1'11.062、#75「DXL SPM シーワン 82」1'12.420。

新規参加の#450「トルネオの大冒険」だが、マシントラブルが解消せず残念ながら予選不出走となってしまった。

■序盤

スタートから接戦で、じりじりとした展開。#62「WN CLN シビック」、#72「SWEETSIGNAL パルサー」、#33「ボディショップ國盛 WP ミラーージュ」と予選順位そのまま時間が過ぎていく緊迫した序盤戦。#91「BRP スターレットターボ」は#106「D&M スパイクオート 106」をかわして 4 位を走行、#111「S'tec AE-1 ファジートレノ」も#1「ミュルサンヌ MR-S」を抜いて 6 位、最後尾は#75「DXL SPM シーワン 82」、ただほぼ同一周回だ。

■中盤

1 時間過ぎとなると、先行していた#62「WN CLN シビック」はピットイン。首位は#33「ボディショップ國盛 WP ミラーージュ」にかわり、#72「SWEETSIGNAL パルサー」が追う。3 番手には#106「D&M スパイクオート 106」、4 番手には#111「S'tec AE-1 ファジートレノ」がそれぞれ浮上、ベテラン勢のレースの読みはどうか。

5 位、6 位は#91「BRP スターレットターボ」、#1「ミュルサンヌ MR-S」、そのあとに#75「DXL SPM シーワン 82」が続き、#62 がクラス最後尾。周回数にはトップから最後尾まで 4Lap 差で全く予断を許さない。

■終盤

1 時間半過ぎには一旦、#111「S'tec AE-1 ファジートレノ」がトップに立つが、2 時間を過ぎて#72「SWEETSIGNAL パルサー」が初めて首位を走行。しかし 5 秒弱の差で#33「ボディショップ國盛 WP ミラーージュ」がピタリマーク。さらに#111 も 9 秒差で追いかけるというデッドヒート、3C クラスも見ごたえ十分。

2Lap ほど差を開けて、#106「D&M スパイクオート 106」が 4 位、#91「BRP スターレットターボ」が 5 位と続く。6 位はきっちりと Lap を消化している#62「WN CLN シビック」順位以上に不気味な存在。最後尾は#75「DXL SPM シーワン 82」だが、こちらも優勝経験のあるチームだけに侮れない展開。

Race Report

GT-CAR PRODUCE

■最終結果

混戦のこのクラス開幕戦を制したのは#62「WN CLN シビック」、2時間半過ぎにトップに立つと、そのまま最後までポジションを守ってゴール！一時は最下位を走行するなどしていたが、耐久ならではのインサイドワークで見事再浮上で、2位に2Lapをつけて開幕戦優勝。

2位争いが激戦！ゴール直前に入ったSCの時点では、#111「S'tec AE-1 ファジートレノ」が前、#33「ボディショップ 國盛 WPミラージュ」が後ろだったが、SC明けで#33が猛プッシュ、とうとうヘアピンで#111をとらえて順位逆転、最終盤での手に汗握るバトルとなった。

4位は#91「BRP スターレットターボ」、新規参加で4位はお見事。5位、6位は#72「SWEETSIGNAL パルサー」、#106「D&M スパイクオート 106」で途中のアクシデントが痛かった。

クラス最下位は#75「DXL SPM シーワン 82」、予選から今一つ波に乗れなかったのか、大きく浮上できずにレースを終えている。また#1「ミュルサンヌ MR-S」はリタイヤとなった。

■総評

まさに激戦の開幕戦、#62「WN CLN シビック」はレース中の最速ラップも、クラスで唯一2秒台に入るなど速さもあり、ピット戦略もはまり会心のレース運びといったところか。

マシンの顔ぶれを見ただけで、ボーイズレーサー好きが小躍りするラインナップが好バトルを展開するこのクラス、どのマシン・チームが勝ってもおかしくない。そのなかで、見事なレースをした#62に乾杯！



新規参加で4位をゲット #91



一時はクラストップを走行 #72



トラブルは残念 #106



予選から調子の上がらなかった #75



残念ながらリタイヤ #1





昨年開幕はトラブルだったが、今年は制した



久しぶりの登壇！ #19



OP クラス 3 位は立派 #15



一年ぶりの表彰台は次回へ期待 #6

「OP」クラス（排気量区分なしのオープンクラス）

OP クラスは強力なライバルがひしめく中、軽量を武器に昨年タイトルを獲得の #110「アライメント浜松シティー」を中心に、速さなら任せろの #18「T-BODY エクセルインテグラ」、クロダレーシングの #96「TeamKRS WM DL EG6」、シブい実力派 #19「YADOKARI シビック」、カテゴリーチェンジで K 耐久から移籍の #880「カーワークス CCMC シビック」、らのホンダ勢、豪快な FR ながら昨年は PP 獲得した #5「MMS 180SX」などといった个性的かつ、高い実力を持ったメンバーが開幕に集結。シーズンの開幕を告げるにふさわしい戦いが始まる。

■予選

まず予選とったのはやはり #18「T-BODY エクセルインテグラ」、総合 PP の 1'00.171！全参加車中唯一の 00 秒台。2 番手に 2 秒差をつけて韋駄天ぶりを見せつけた。#110「アライメント浜松シティー」は 1'02.387、バランスで勝負。予選 3 位は #6「ペンズフレミング シビック」1'02.533、4 位は少数派トヨタ車 #15「キチキチ キッシースターレット」1'03.431、5 位 #96「TeamKRS WM DL EG6」1'02.533、6 位 #880「カーワークス CCMC シビック」1'03.468 でここまでは総合もすべて OP クラス。

7 位 #19「YADOKARI シビック」1'04.239、8 位にトヨタ車 #56「RS 正和 ナフティスターレット」1'04.621、9 位 #5「MMS 180SX」1'05.210、決勝ではパワーを活かせるか。10 位は久しぶりの登場 #20「久興自動車マイマイ MR2」1'05.865、クラス最後は #9「くねくね男前定食シビック」1'06.580 で全車決勝グリッドに向かう。

■序盤

OP クラスの車両がレース全体を支配して進行、上位勢は接戦。30 分経過では、#96「TeamKRS WM DL EG6」がトップで #110「アライメント浜松シティー」がテール to ノーズでぴったり追走。さらに 8 秒差で #19「YADOKARI シビック」、その 10 秒後方には #880「カーワークス CCMC シビック」といった具合。

各チームのピットワークが本格化する 1 時間経過では、#110 が #19 に 1 Lap の差をつけて単独トップ、3 番手には #15「キチキチ キッシースターレット」、ホンダ車ばかりのなか奮闘、すぐ後ろもホンダ車で 4 番手は #880。

5、6 番手は #56「RS 正和 ナフティスターレット」、#20「久興自動車マイマイ MR2」とここはトヨタ車対決、7 番手は予選トップの #18「T-BODY エクセルインテグラ」少し下がって上位をうかがう。8 位は #9「くねくね男前定食シビック」、30 分時点トップの #96 はピットインを終えたか。

予選好調の #6「ペンズフレミング シビック」だったが、赤旗追い越しのため 1 分のペナルティストップが与えられ、大きく順位を下げてまった。#5「MMS 180SX」はトラブルなのか思うようにペースが上がってこない。だがまだ序盤、先は長い。

■中盤

レースは #110「アライメント浜松シティー」と #19「YADOKARI シビック」の争いを呈してくる、そこへ #15「キチキチ キッシースターレット」、#20「久興自動車マイマイ MR2」が 3 番手争いに絡み、5 位 #880「カーワークス CCMC シビック」までで第 2 グループといった趣き。

6 番手以下は、#56「RS 正和 ナフティスターレット」と #6「ペンズフレミング シビック」は同周回で上位進出を狙う。



ぶっちぎりの速さを見せた #18 は・・・

Race Report

■終盤

2時間経過で、#110「アライメント浜松シティー」が82Lapを消化して堂々の総合トップ。それを#19「YADOKARI シビック」が2Lap差で追っている。#19は直前におかした黄旗追い越し違反で、ドライビングスルーペナルティを受けたのが痛い。実は#19、一時間ほど前にもピットロード速度違反で同様のペナルティを受けており本日2回目。

同じく80Lapで3位走行は#15「キチキチ キッシースターレット」、トヨタ車で気を吐いている。4番手#880「カーワークス CCMC シビック」78Lap、5番手#56「RS 正和 ナフティスターレット」77Lap、6番手はこちらもトヨタ車#20「久興自動車マイマイ MR2」77Lap、7番手#6「ペンズフレミング シビック」は75Lap、8番手#96「TeamKRS WM DL EG6」も75Lap、#96は少し不気味にチャンスを狙っている。9番手#5「MMS 180SX」72Lap、10番手#9「くねくね男前定食シビック」。PPを獲得した#18「T-BODY エクセルインテグラ」は67Lap走ったところでリタイヤとなった。これで#18は、昨年から出場したレースは優勝かりタイヤかという極端流れを、今シーズン開幕戦で継続してしまった。

■最終結果

総合でも優勝となったのは、#110「アライメント浜松シティー」、昨年の開幕はマシントラブルで悔し涙だったが、見事雪辱。2位は#19「YADOKARI シビック」で2011年第2戦以来の約2年ぶりのうれしい表彰台、速いYADOKARIが返ってきた。3位表彰台は#15「キチキチ キッシースターレット」、VTEC軍団を向こうに回しての大健闘、お見事でした。

4位#6「ペンズフレミング シビック」、一年ぶりの表彰台はならなかったが、レース中の最速Lapは第2位、こちらもお見事、5位はK耐久から移籍の#880「カーワークス CCMC シビック」、KNOクラスでは優勝経験もあるチームらしい実力派今後が注目だ。6位は#20「久興自動車マイマイ MR2」、7位は#56「RS 正和 ナフティスターレット」、8位は#96「TeamKRS WM DL EG6」、9位は#9「くねくね男前定食シビック」。最後の最後にSCを呼ぶことになってしまった#5「MMS 180SX」はそのままチェッカーを受けられず、完走扱いの最下位、これは残念。



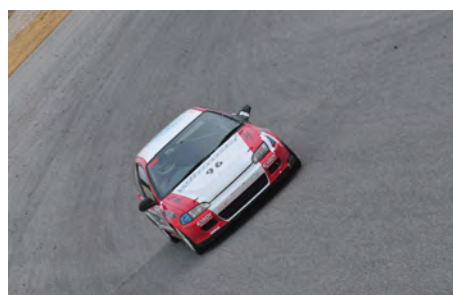
K耐久移籍組は5位 #880



ヤドカリもいればカタツムリもいる #20



ホンダ車を向こうに回して奮闘 #56



まだまだ健在 EGシビック #96



粘って完走 #9



最後の最後にチェッカーを受けられず #5



ピットワークの重要性はアップ



RS 龍妃によるパレードラップ



今年もお楽しみプレゼントは健在



競技長による新ルール説明

■総評

開幕戦を終えて見てきたのは、これまでにない接戦のシーズンということだ。OP クラスにおいても、優勝した#110「アライメント浜松シティー」と#19「YADOKARIシビック」はわずか13秒差。ともにペナルティなどは受けているが、これらがなかったらあるいは・・・という僅差だ。表彰台争いも同様に8秒差で明暗を分けている。ノーマルカーレースでは強さを見せるホンダ車と互角にやりあい、表彰台まであと一歩に迫った#15「キチキチ キッシースターレット」に拍手！

さて次戦は、シリーズの流れを決める大事な第2戦、どんなわくわくが待っているだろう。



このシーンは今シーズン増えるはず